

平成30年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 特 選 〉



- ① 広報 あいら AIRView (9月号)
- ② 29,000部・12回
- ③ A4判・38ページ
- ④ 始良市 秘書広報課



【特集】 クローズアップ・その人を知る「人知」からはじまる認知症エピソード。

○ 講評

【企画】

- ・ 約20ページに及ぶ認知症特集は圧巻。ポイントをおさえた見せ方だと感じる。イベント告知も巧み。ただ、「勇気農家」や「始良人」などに年齢を入れれば、読み手に親近感をもって読んでもらえる一歩になるのでは。
- ・ 特集記事に力を入れた、雑誌並みに完成度の高い紙面。広報紙というより市外在住者も楽しめるような読み物の位置付けだという印象を受ける。

【文章】

- ・ 「認知症」はやや硬い書き方が気になるものの、展開はしっかりしていて読ませる。その後も伝えたい内容を過不足なくまとめている。
- ・ 読み物の側面が強いという特徴を鑑みれば、全体的に文章が長い。「必要最小限の情報を知りたい」という読者のためにページの割り振りは分かりやすいほうがいい。

【デザイン・レイアウト】

- ・ 写真やグラフ、図解（とくに脳）など、とても手慣れた感じがする。
- ・ 洗練されたレイアウト。写真や見出しも多用されて分量の多さをそれほど感じさせない。

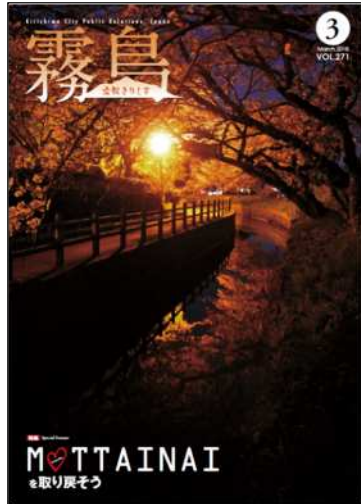


平成30年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 きりしま（3月上旬号）
- ② 45,600部・22回
- ③ A4判・32ページ
- ④ 霧島市 秘書広報課



【特集】 MOTTAINAI を取り戻そう

○ 講評

【企画】

- ・ 食品ロス対策は切り口、展開、見せ方の3拍子がそろった好企画。「思い出の味」「DREAM」も引きつけられる内容。
- ・ 取材力と企画力が生きる「もったいないー」の特集記事。見出しや写真の配置なども工夫され、広報紙の枠を超えたクオリティーの高さを感じる。

【文章】

- ・ どのページもこなれた、分かりやすい文章。
- ・ 特集の記事は文体に温かみを感じ、読後感がいい。外部投稿を活用している特徴もさまざまな視点や文章が盛り込まれることにつながり、広報紙の幅を広げているように思う。

【デザイン・レイアウト】

- ・ 食品ロスをはじめ、とくに人物写真はいい表情をとらえたものが目立つ。「ミライ、ワーク」はしばらくしてから、同じ人のオンオフ写真と気づき、おかしかった。
- ・ 「読者の声」にページを割いたり、市長コラムを最小限にとどめたりした編集方針に好感が持てる。レイアウトもすっきりしていてどんどん読み進められる。



平成30年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 たるみず（3月号）
- ② 8, 200部・12回
- ③ AB判・40ページ
- ④ 垂水市 企画政策課



【特集】 知って、食べよう 地元産の食材

○ 講評

[企画]

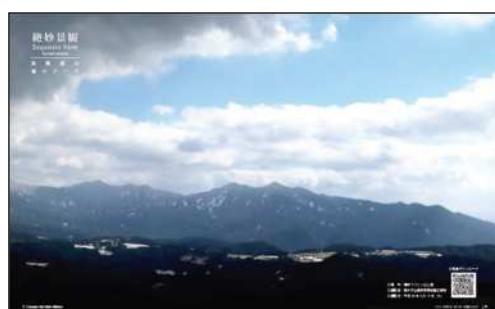
- ・ 地元産食材特集は行政の計画、取り組む人々、学校給食や卸売市場までよく取材している。
- ・ いかに読者を引き付け、伝えたい情報を読んでもらうかは広報紙が抱える命題。ポストカードや映画のクーポン券など読者を引き付ける工夫が随所に見られる。

[文章]

- ・ 要点をおさえてよく書いている。ただし横組みの場合、1ページ幅（全紙幅）で流さず、二つ割りにした方が親切では。
- ・ まだまだ文章の分量を短く簡潔にまとめられるが、字間を空けたり、見出しを大きくしたりして読みやすさを追及している。

[デザイン・レイアウト]

- ・ 色数のバランスなど好感が持てる。写真と記事、見出しのバランスも良く、全体に読みやすい。
- ・ 表紙を組み写真で構成する手法は新鮮。最も伝えたい情報を裏表紙に掲載したのもいい。広告のページは読み物と区別ができるよう一カ所にまとめたほうがベター。



平成30年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 さつま (10月号)
- ② 9,200部・12回
- ③ A4判・20ページ
- ④ さつま町 総務課



【特集】 獣害に負けない 楽しい農業

○ 講評

[企画]

- ・ 農作物の獣害対策は住民が無意識のうちに行っている「餌付け」をやめることが第1のポイントという指摘がユニーク。カット絵や写真も効果的で、何より実践した人の体験談は説得力がある。今後も質問を役場で受け付けるなど目配りが効いている。裏表紙の「人 夢」は児童、生徒の表情写真がよく、内容もいい。
- ・ 巻頭の鳥獣対策企画をパッと見た瞬間、文字の多さに抵抗を感じたが、執筆者のキャラクターと文章の面白さに引かれる。前例にとらわれないチャレンジ精神に好感が持てる。

[文章]

- ・ 特集や決まりものをはじめ、「まちのニュース」なども簡潔で分かりやすくまとめている。
- ・ 全体的にすっきりとまとまっているが、「まちのニュース」などは柔らかい表現も盛り込み書き手の息遣いが伝わればさらによい。

[デザイン・レイアウト]

- ・ 特集と関連する表紙の田の神様の写真は雰囲気があっていい。告知ものなどもすっきりとしたレイアウト。
- ・ 文字フォントや文字の間隔など余裕のあるレイアウト。講演会やイベントの告知は一カ所にまとめた方が分かりやすい。



平成30年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 いぶすき（10月号）
- ② 19,000部・12回
- ③ A4判・28ページ
- ④ 指宿市 市長公室



【特集】 指宿のオクラがブランドになる日

○ 講評

【企画】

- ・ 地元産食材のオクラの料理法紹介から書き出し、益虫を活用した栽培法PRという展開は面白かった。ページをもっと割いてもよさそうだ。特産品シリーズ、まるごと博物館などは地図が欲しい。転入者などのことも考えた紙面を目指したい。
- ・ 特産の「オクラ」を前面に出し、表紙から巻頭、関連特集と連動させた企画力が光る紙面。市民への情報提供という広報紙の役割に加え、読み物の要素を盛り込んだクオリティの高い内容になっている。

【文章】

- ・ よくまとめている。
- ・ 全体的に文章が長く、読みやすさを重視するなら改善の余地あり。普通は読み飛ばしてしまいそうな「市長あいさつ」が示唆に富んでいい。

【デザイン・レイアウト】

- ・ まちの話題など見やすいレイアウト。
- ・ 字数が多く、ボリュームを感じる紙面で読みづらさも感じるが、それを色彩豊かなレイアウトや企画力でカバーしている。

【その他】

- ・ 年を追うごとに紙面のレベルが上がっていると感じる。広報紙の枠にとらわれない内容で、市民以外の方が手にとって楽しめるかと思う。



平成30年度 鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 入 選 〉



- ① 広報 ひおき（7月号）
- ② 23,000部・12回
- ③ A4判・24ページ
- ④ 日置市 総務課



【特集】 私は、バスを選んだ

○ 講評

[企画]

- ・「私はバスを選んだ」は着眼点がいい。停留所でバス待ちのお年寄りやおばあちゃんと孫の2ショットなど写真も心が和む。押しつけがましくなく、一緒に同乗して考えるという発想は評価できる。インタビュー「Life」も構成がしっかりしている。
- ・バスの特集記事は記者が体験して感じた現状を伝えつつ、課題解決のための行政サービスを知らせる。広報紙の役割を凝縮したすばらしい内容。

[文章]

- ・とても柔らかい文体。ルポ風の「バス」特集は当日の雰囲気を感じられ、インタビューもきちんと書かれている。ただし、インタビューの経歴と本文にだぶりがある点が気になる。どちらかにあればいい。
- ・特集記事は硬くなりがちな行政文書にとらわれない温かみのある文体。書き手の意欲が伝わってくる。インタビュー形式の方が読みやすいが、新聞や雑誌のように読ませる記事だと見れば、ボリュームも気にならない。

[デザイン・レイアウト]

- ・どのページも写真、記事などのバランスがよくとれている。
- ・まちの話題を象徴する表紙の写真選びや豊富なカラー一面などは工夫されているが、文字のフォントを大きくし、文章の量をさらに抑えるとさらに読みやすくなる。

